

令和元年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業 課題対応型学習活性化セミナー（道央会場）事業報告

I 事業の概要

研修テーマ 地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働
～ 若者の地域参画を目指して ～

1 趣 旨 各地域の課題解決に向け、講演や協議を通して住民の主体的な行動を促すための方策について考える。

2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
空知社会教育研究協議会

3 期 日 令和元年9月3日（火）

4 会 場 深川市経済センター

5 参加対象 市町村及び市町村教育委員会職員・各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）・社会教育関係団体職員・生涯学習関連施設職員・民間団体（NPO、企業等）関係者・教員 等

6 参加状況 20名
（教育局職1名、市町村教育委員会職員17名、道立青少年体験活動支援施設職員1名、生涯学習審議会委員1名）

7 日 程

9:45	10:00	11:30	12:30	15:00
受付	開会	講演	昼食	協議
				閉会

8 活動の概要

(1) 講演「地域資源を生かしたまちづくり～若者を巻き込んだ取組のヒントを探る～」

【講師】札幌国際大学教授 吉岡 宏高 氏

【内容】 日本の総人口は2008年をピークに減少を始め、2040年には1億1,000万人程度となる。また、生産年齢人口の減少も加速し、2040年には毎年100万人程度の減少が見込まれる。

北海道においても、市町村の大きさに関わらず、人口は減少し続けることが予想され、その減少の仕方は「どの年齢層も全体的に減少」、「高齢者は増えるが総人口は減少」、「働き手が他の年齢層に比べ圧倒的に減少」等、様々である。

こうした中、地域づくりも従来のやり方では効果が出ない状況になっている。社会教育の評価は、教育で社会がどのように変わったかという、インパクトだと思う。社会教育を通じて、まちをどのような



状態にしたいかという「目標」を明確にし、取組を次々と繰り出していく。そうすると、全く出来ないと思っていたことも、少し前進するという、新しい現実を作ることができる。地域づくりは、10の取組のうち、1～2が当たればよいほうだと思う。多様な発火点を仕掛けて、発火を待つ姿勢も大切にしてほしい。

(2) 協議

【進行】 北海道立生涯学習推進センター社会教育主事 中西 めぐみ
空知教育局教育支援課社会教育指導班主査 尾形 行亮

【内容】 はじめに、若者の地域参画に対する各市町村の捉え方について、円グラフカードを使って全体で共有。その後、「若者を巻き込んだ地域づくりを進めるためには、どのような取組ができるか？」というテーマで協議を進めた。参加者からは、「若者が集まるイベントを企画し、何度も繰り返す。最終的には若者会議という場を作り、行政職員と意見交換できるようにしたい」、「個々の得意なことで地域に関わることができる集団作りからはじめたい」といった意見等が出された。



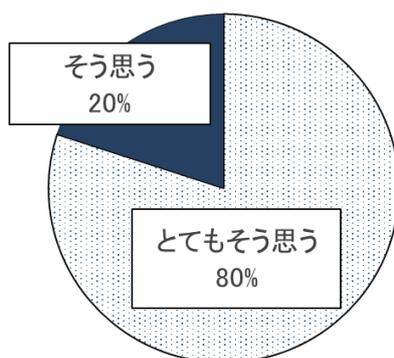
II 事業の満足度

1 本講座参加者数 20名

2 アンケート対象者数 15名

3 全体をとおして

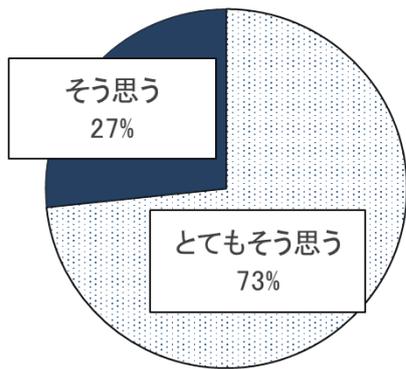
(1) 本セミナーは、若者の地域参画について考える機会となりましたか。



【参加者の声】

- 色々な町の方の意見を聞いて、自分の町でできることもたくさんあった。
- 講義と協議でじっくり考えることができた。
- 具体的な案を考えることができた。

(2) 本セミナーの内容は、今後の事業改善や取組の検討へつながると思いますか。

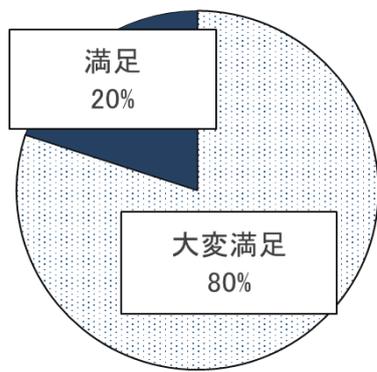


【参加者の声】

- ひとつのテーマについて、参加者全員で考えることができたため。
- 他市町の現状を知ることができたから。

4 プログラムの内容について

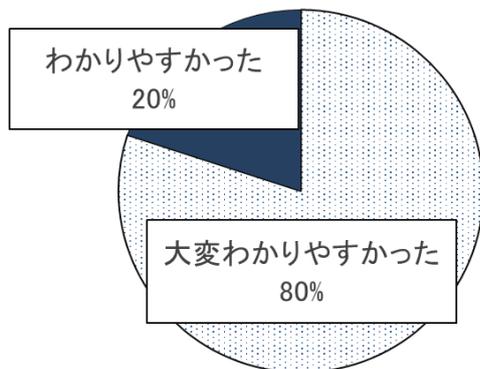
(1) プログラムの内容はいかがでしたか。



【参加者の声】

- 今後の取組について、具体的なイメージを描くことができた。
- 社会教育に関わってまだ日が浅いので、このような機会は大変参考になり、よい刺激になった。また参加したい。

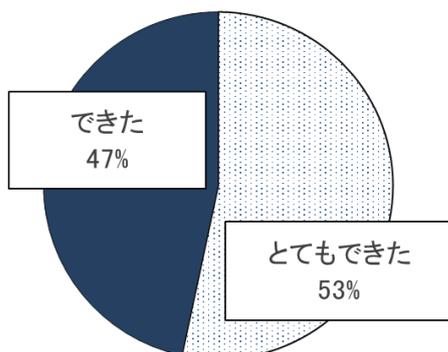
(2) 講師の説明はわかりやすかったですか。



【参加者の声】

- 資料が見やすかった。
- 地域の価値をどのように捉えるか、目標（ありたい姿）をどのように設定するかが非常に重要だと学んだ。

(3) 「協議」では、若者を巻き込んだ地域づくりを進めるための取組について考えることができましたか。



【参加者の声】

- 新しい手法で、新鮮な気持ちで参加することができた。
- チームで考えた取組案を是非、実現したい。
- テーマが各市町の抱えている課題とあっていて、考えを深めやすかった。